

社会福祉法人 山形県社会福祉事業団広報誌

# かざぐるま

ひと 未来 輝いて

2021 November

NO. **105**



明鏡荘利用者の塗り絵

## 特集

### ● 「将来構想に基づく後期5か年実行計画」 概要

## トピックス

- 令和2年度事業報告（概要）及び決算報告
- 令和3年度役員及び評議員
- 各施設の取組
- 常務理事ごあいさつ、お知らせ

# 「将来構想に基づく後期5か年実行計画」概要

事業団は、これまで「将来構想に基づく5か年実行計画(平成28年度～令和2年度)」に基づき経営を進めてきましたが、このたび、「将来構想に基づく後期5か年実行計画(令和3年度～令和7年度)」が策定されました。本計画を実行するにあたり、3つのプロジェクトチームを立ち上げ、計画達成に向けて、更に検討を進めているところです。

今回は、「将来構想に基づく後期5か年実行計画」の基本方針について、ご紹介いたします。

## 【計画の基本方針】

### 1 地域と共に歩む事業展開

#### ●地域共生社会の実現

地域社会の一員として、地域住民や関係機関等と連携を図りながら地域の安全・安心を確保し、地域共生社会の実現を目指していく。

#### ●多様化・複雑化するニーズへの対応

市場調査に基づき、地域の福祉ニーズを的確にとらえ、地域の実情を踏まえた事業展開を図るとともに、施設・事業所の連携を推進し、多世代交流・多機能型福祉など、多様化・複雑化するニーズにも応えていく。

### 2 地域生活を支える総合窓口としての事業展開

#### ●ワンストップ・ノンストップの事業展開

施設に多様な機能を付加し、ワンストップ(窓口一本化)・ノンストップ(24時間対応)で利用できる地域生活を支える総合窓口として、事業展開を図っていく。

#### ●相談支援事業所の更なる活用

事業団が自ら展開する相談支援事業所を更に活用し、利用者ニーズを的確にとらえ、地域利用者と福祉サービスを結びつける拠点としていくとともに、事業団施設との情報の共有化や連携を図っていく。

### 3 機能強化の推進

#### ●専門的ニーズへの挑戦

多様化・複雑化する福祉ニーズを的確にとらえ、機能強化に伴い配置した医療専門職や有資格援助職を活用し、事業団の持てるノウハウや専門性を発揮しながら、利用者へのサービス向上をさらに推進するとともに、難病、医療的ケア、重症心身障がい及び触法障がい者への支援など、今後さらに高まるニーズに積極的に挑戦していく。

#### ●重度者の地域移行の推進

引き続き施設入所者の地域移行を推進するとともに、重度者の地域移行についても積極的に取り組んでいく。

### 4 業務効率化の推進

#### ●ICT及びAI化等の推進

利用者支援業務やそれに付随する事務的業務に最新技術を取り入れるなど、ICT化及びAI化等による業務のシステム化を積極的に進めていく。

#### ●新調理システム(ニュークックチル)の導入及びセントラルキッチンを設置

利用者サービスの向上と職員の労働環境の改善を図るため、施設厨房への新調理システム(ニュークックチル)の導入やセントラルキッチンの設置など、食事サービスの効率化と経費の削減を図っていく。

## ●事務のシステム化等の推進

財務・会計及び人事・組織業務のシステム化、業務の集約化、規程等の簡素化並びに権限の委譲等をさらに推進し、業務の効率化を進めていく。

## 5 多様な人材の確保・育成と働きやすい環境づくり

### ●ウェブサイト等を活用した人材の確保

職員の採用にあたっては、ウェブサイト等の最新技術を積極的に取り入れ、インターンシップの実施や就職説明会を開催するなど、多様で優秀な人材の確保に努めていく。

### ●研修の充実・強化による人材の育成と定着

内部研修やOJTを充実・強化するとともに、外部研修にも積極的に派遣することにより、時代の変化にしなやかに対応できる人材の育成と定着に努めていく。

### ●仕事と家庭の両立と働きやすい環境づくり

結婚、出産、子育て、介護など、仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を基本とした制度を確立し、やりがいのある働きやすい環境づくりを進めていく。

## 6 自立的経営の確立

### ●収入の確保と支出の削減

自立的な経営が可能となるよう、更なる収入の確保と支出の削減に取り組んでいく。

### ●経営基盤の確立

安定した経営基盤を確立するため、目標稼働率の達成、新規事業開拓、事務・事業の見直し及び人件費抑制など、実効性のある計画を着実に実行していく。

## 【経営計画の概要】

### ◆期間

令和3年度～令和7年度  
10年計画の(後半)5年と位置づけ

### ◆目的

- 1 先駆性、専門性及び広域性の発揮と県民福祉のセーフティネット機能
- 2 地域に期待される安定したサービスの提供と自立的経営基盤の確立

### ◆基本方針

- 1 地域と共に歩む事業展開
- 2 地域を支える総合窓口(拠点化)
- 3 機能強化及び地域移行の推進
- 4 業務効率化の推進(ICT化・AI化)
- 5 人材の確保育成と働きやすい職場
- 6 自立的経営の確立

### ◆事業別計画

- 1 入所定員削減、対象拡大(救護施設)
- 2 指定管理、稼働率向上(養護老人ホーム)
- 3 個室化、利用定員見直し(特別養護老人ホーム)
- 4 専門強化、利用定員見直し(障害者支援施設)
- 5 本体統合、地域総合窓口(サポートセンター)
- 6 組織見直し、事務効率化(法人本部事務局)

### ◆人材確保・育成計画

- 1 採用方法見直しによる人材確保
- 2 研修システム構築・OJT強化
- 3 資格取得推進・研修と人事の融合
- 4 職員提案制度・働きやすい職場

### ◆経営改善計画

- 1 施設の拠点化と地域移行の推進
- 2 入所定員見直しと目標稼働率達成
- 3 改築と専門部署設置で稼働率向上
- 4 新規事業開拓と新たな加算取得
- 5 事務・事業見直しによる経費削減
- 6 職員数削減等による総人件費抑制

経営改革本部設置・計画推進・進行管理

## 令和2年度 事業報告（概要）

令和2年度は、「将来構想に基づく5か年実行計画」（以下、「実行計画」という。）の最終年度として、中間評価に基づき実行計画を進めるほか、実行計画の検証・課題等の整理、対応を行い、「将来構想に基づく後期5か年実行計画」（以下「後期実行計画」という。）につなげるため、7つの目標（①利用者の権利擁護の推進と個別支援の充実、②機能強化に向けた組織的運営体制の確立、③人材の確保・育成の強化と働きがいのある職場づくり、④自律的経営に向けた職員の主体的な経営参画、⑤新たなサービスの創造とブランド力の向上、⑥5か年実行計画の進捗状況の評価と検証、⑦地域に対する事業活動の積極的な情報提供）を掲げ自立経営と特色ある福祉事業を目指し、目標達成に向けて取り組んだ。

特に、実行計画の検証から、今後5年間の課題整理（収支シミュレーション）において各施設・事業所の目標稼働率の達成が最も重要であることから、稼働率の進捗を管理・推進する専門部署の設置や毎年度計画の達成状況について評価・検証を行う委員会を新たに設置した後期実行計画を策定した。

## 令和2年度 決算報告

### 令和2年度資金収支計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計	7,203,770,259
事業活動支出計	6,808,056,318
事業活動資金収支差額	395,713,941
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	642,428,188
施設整備等支出計	639,479,675
施設整備等資金収支差額	2,948,513
その他の活動により収支	
その他の活動収入計	61,045,979
その他の活動支出計	646,282,572
その他の活動資金収支差額	△ 585,236,593
当期資金収支差額合計	△ 186,574,139
前期末支払資金残高	1,653,616,378
当期末支払資金残高	1,467,042,239

### 令和2年度事業活動計算書

(単位：円)

勘定科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	7,195,705,379
サービス活動費用計	6,891,407,819
サービス活動増減差額	304,297,560
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	16,413,721
サービス活動外費用計	6,336,334
サービス活動外増減差額	10,077,387
経常増減差額	314,374,947
特別増減の部	
特別収益計	251,504,465
特別費用計	257,219,520
特別増減差額	-5,715,055
当期活動増減差額	308,659,892
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	2,335,652,650
当期末繰越活動増減差額	2,644,312,542
基本金取崩額	0
その他積立金取崩額	20,604,000
その他積立金積立額	573,249,000
次期繰越活動増減差額	2,091,667,542

### 令和2年度貸借対照表

(単位：円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	2,023,175,322	流動負債	869,115,709
		固定負債	1,546,472,456
		負債の合計	2,415,588,165
固定資産	7,729,168,090	純資産の部	
		基本金	10,000,000
基本財産	4,482,393,326	国庫補助金等特別積立金	3,506,170,264
		その他の積立金	1,728,917,441
		次期繰越活動増減差額	2,091,667,542
その他固定資産	3,246,774,764	(うち当期活動増減差額)	308,659,892
		純資産の部合計	7,336,755,247
資産の部合計	9,752,343,412	負債及び純資産の部合計	9,752,343,412

## 令和3年度 役員及び評議員

### ●役員

役職	氏名	現職
理事長	飛塚典子	専任
常務理事	荒木 歩	専任
理事	伊藤陽介	浜田・伊藤法律事務所 弁護士
理事	新澤陽英	公立置賜南陽病院 医師
理事	鈴木一成	総合コロニー希望が丘 所長
理事	佐藤保政	総合施設かるむの里 所長
理事	木村正明	養護老人ホーム明鏡荘 荘長
監事	大泉享子	山形県労働委員会委員
監事	矢口俊雄	前公益財団法人 山形県生涯学習文化財団 専務理事

### ●評議員

(※五十音順)

氏名	現職
稲葉明彦	山形県老人福祉施設協議会副会長
江口拓也	日本精神科病院協会山形県支部長
遠藤茂幸	山形県知的障害者福祉協会副会長
金子正美	川西町社会福祉協議会会長
佐藤博幸	山形県身体障害者福祉協会事務局長
佐藤啓之	遊佐町社会福祉協議会常務理事
澤邊みさ子	東北公益文科大学教授
玉木康雄	山形県社会福祉協議会会長
前川孝子	フリーアナウンサー

### ■やまがた男性育休取得推進プロジェクト■

## “やまがたイクボス同盟ウエーブアクション”

この度、「やまがた男性育休取得推進プロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは、男性育休取得の機運醸成を図り、男女が共に仕事と家庭を両立できる環境づくりを促進させることを目的として山形県が実施したものです。

当事業団の取組内容についてご紹介します。

- 取組内容：●法人内の施設長研修や新規採用職員説明会等を活用した制度の周知  
●リーフレットを用いた周知や啓蒙  
●育児休業代替臨時的採用職員の配置による育児休業の取得促進  
●育児時間代替職員の配置による育児時間の取得促進

今後も、引き続き男女共に働きやすい職場づくりに取り組んでいきます。

## ◎各施設の取組

～新しい生活様式 With コロナ / After コロナにおける取組～



### 「松濤荘」 「松濤荘の新型コロナウイルス感染症対策」

副荘長 鈴木 恵

松濤荘では、すでに2回のコロナワクチン接種を終了していますが、ウイルスを持ち込まない、広めない取組を行っています。利用者の皆さまは、毎日の検温等による健康観察を行っています。職員は、検温後出勤や休憩時の環境の見直し、マスク着用の徹底に努めて支援をしています。また、面会は、ご家族の皆さまにご理解とご協力をいただき、オンラインで実施をしています。

コロナ禍でも利用者の皆さまが安心して、楽しみのある日々を過ごしていただけるように、正しい知識をもち感染症対策を継続していきます。



### 「大寿荘」 「コロナに負けずに」

荘長 伊藤 政明

「たこ焼きおいしいね!」「かき氷冷たくてうまい!」笑顔にあふれた夏祭りが無事に開催されました。利用者の皆さまの笑顔のために、そして、密を避けるために午前の部と午後の部の二部制での開催という新たな方法で準備を進めてまいりました。

新しい生活様式の中で、制限のある中でも楽しみを持てるような日常の活動、季節感を感じることができる行事の開催など、前向きな考えで取組を行っています。

試行錯誤の毎日ですが、コロナに負けずに、利用者の皆さまが安心して明るく、楽しく、元気に暮らせるように今後も支援してまいります。



## 「おいたま荘」 「With コロナでできる限り」

荘長 平 憲治

おいたま荘は自立した生活を営み、社会的活動に参加するための支援を行う施設です。本来は利用者の皆さまが自由に外出や外泊、面会などをしていましたが、コロナ禍でその生活が一変しました。夏まつりや敬老会などの行事は2部制にする工夫をしながら開催しています。日中活動としては、音楽レクリエーションやドライブ外出、カラオケや輪投げなど感染症対策をしながら実施しています。

コロナが収束するまで、まだ時間がかかると思いますが、With コロナでその時々状況に応じて利用者の皆さまが生き生きとした生活ができるような支援に努めてまいります。



## 「みやま荘」 「みやま荘の感染症防止の取組」

荘長 村岡 恵美

みやま荘では、「新しい生活様式」を基本に感染対策に取り組んでいます。荘内の消毒清掃を1日2回定時に行い、食事や作業時のテーブル使用人数の制限を設け、集まる時は布マスク、外出時は不織布マスクと、利用者の皆さまは使い分けもしています。今では、互いに声をかけるなどマスク着用にも慣れてきました。また、買物もネット購入を取入れ、職員と一緒に品物を選びながら会話も弾み、楽しんでいきます。

これからも、利用者の皆さまの安全な生活を守るため、職員一同感染防止に取り組んでまいります。



## 「鶴峰園」 「できないことを探さずできることを探して」

援助員 高山 範幸

鶴峰園では、「コロナだからできない」から「コロナだけど楽しめること」を考えながら、利用者の皆さまの「楽しかった」の声がたくさん聞かれるような取組をしています。

鶴峰園の一大イベントの夏祭りは、テーブルに感染防止パネルの設置やこまめな消毒等の感染症対策を徹底しながら開催しました。職員だけでなく利用者の皆さまのコロナに対する意識が定着したから行えたと思います。また、日中活動では「ソバめし」「一口ピザ」作りに挑戦しました。作業療法士による身体を使っての口腔体操も行っています。

今後も利用者の皆さまと一緒に楽しい取組を考えていきたいと思ます。



## ごあいさつ

このたび、常務理事に就任いたしました荒木歩と申します。

山形県社会福祉事業団については、これまで山形県の福祉事業の先導的な役割を担ってきたわけですが、引き続き県民の期待に応えていくためには、今年3月に策定した後期5か年実行計画に基づく事業展開と自立的な経営基盤の確立のための取組を適切に実施していく必要があります。

また、健全な組織運営に当たっては、働きやすい勤務体系の構築や研修体系及び人材育成体制の充実等、働きがいのある職場づくりが大変重要であると考えております。

私としても、今後とも事業団が多様化・複雑化するニーズに的確に対応するとともに、先駆性、専門性及び広域性を発揮しながら県民福祉のセーフティーネット機能を果たせるよう努力してまいりますので、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 「山形県立福祉休養ホーム寿海荘」 閉館のお知らせ

開館以来、お引き立ていただけてまいりましたが、**令和3年3月16日**をもちまして閉館いたしました。

これまで多くのお客様にご利用いただきまして、心より感謝申し上げます。



## 42年間のご愛顧ありがとうございました。

## のどか 季節限定メニュー

秘伝豆塩ぱん

おいもぱん

のどかでは、生産活動としてパン作りをしています。こだわりは、何といても『添加物不使用、国産の材料を使用した安全安心なパン!』一度ご賞味あれ♪

無着色  
無保存料

安全・安心  
国産材料  
使用



就労継続支援B型事業所 「のどか」

〒999-3511 西村山郡河北町谷地己56番地の8

詳しいお問合せは

☎ 0237-72-6550 までご連絡ください!